

<Research Consortium> 関西学院大学総合政策研究 科リサーチ・コンソーシアム第17回総会記念事業報 告

著者	細見 和志
雑誌名	総合政策研究
号	51
ページ	95-98
発行年	2016-03-31
URL	http://hdl.handle.net/10236/14379

関西学院大学総合政策研究科リサーチ・コンソーシアム 第17回総会記念事業報告

細見 和志

Kazushi Hosomi

【記念事業の主旨】

2015年5月22日に開催された第17回リサーチ・コンソーシアム総会記念事業のメイン・テーマは、「人と水の未来」です。水文学(すいもんがく)の本をひもとくと、かつては「川の水がどこから来ているのか?」ということさえも、人々はなかなかわからなかったようです。海などから水蒸気が雲を作り、降雨となってまた川をくだる、こうした「水循環」の概念にたどりつくのは、ようやく17世紀のことなのです。

さて、「水」は我々にとって様々なイメージを醸し出します。例えば、日本では古来、水は「湯水のごとく使う」存在でした。しかしその片方で、「水争い」といえば、「我田引水」のために抜き差しならぬ争いの対象ともなることを示しています。そうかと思えば、日本人にとってすべてを「水に流す」のは当然のことでした。しかし、近代化によってヒトの活動が盛んになるにつれ、環境は有限なものとなり、もはや簡単には「水に流せ」なくなっていました。

その一方で、近代化は、それまで田畑を潤し、モノや人を運び身近な環境を彩ってきた水＝河川／湖沼を「統御」し、氾濫原や台地を切り開いて、巨大都市を誕生させました。その過程で、我々は堤防等によって水から次第に遠ざけられて行きます。上下水道の発達に伴い、都市自身に降る雨はひたすら排水され、水をとりまく環境は著しく変貌しました。私たちはどうすれば持続可能な「水循環」を蘇らせることができるのでしょうか。記念講演とシンポジウムを通じて、我々にとってあるべき水との関係、特に持続可能な水環境のありかたについて、考えてみたいと思います。(第17回総会記念事業プログラムより一部編集・抜粋)

【総会記念講演】

テ　　マ：「未来を拓くAMAMIZUイノベーション ―時空を超え循環し生命と文化を育む、
あまみず
天水に学ぶ―」

講　　師：村瀬 誠氏(株式会社天水研究所代表取締役、 Bangladesh 現地法人 Sky water Bangladesh 会長、東邦大学薬学部客員教授)

〈講演要旨〉

地球が「水球」ともよばれるように、地球上には豊かな水が存在する。しかし、その水の元はといえば雨である。46億年という非常に長い年月の地球の歴史の中で雨こそが海を創造し、空と大地や海の間を循環しながら多種多様な生命を誕生させ、地球生命圏を生み出したので

ある。人もこの文脈の中で誕生した。人は水を利用し自然を改変することによって農業や工業などさまざまな産業を興し、そして都市を作った。まさに人の利便性と快適性を徹底してできた現代都市こそ、人の自然改変のシンボルと呼べるだろう。

しかし、その都市の暮らしも大地と空の間にあり、時空を超えて循環する雨によって生かされてきたのである。例えば、飲み水ひとつをとってみても改めてそのことに気づく。東京の水道水のもととは遠くの水源地に降る雨であり、その雨のルーツは、モンスーンアジアの水循環なのである。

人と水の未来は、その現状を直視し過去から学ぶことによって見えてくる。人が巨大な自然改変力を手にし、原発事故や地球の温暖化に象徴されるように、地球生命圏の存続に決定的な影響力を持つに至った現在ほど、人と水における「温故知新」が求められている時代はないように思う。人は太古から雨を天の恵みとして大切にし、暮らしに活かしてきて。本基調講演では、平和で幸福かつ、持続可能な社会を地球規模で実現していくために、講演者が長年にわたって内外で取り組んできた天水(あまみず)活用の試みを紹介し、共に人と水の未来を考えたい。

【シンポジウム】

総会記念講演に続き、「水環境をめぐる」と題して、3名のパネリスト、2名のコメントーターの方々によるシンポジウムが開催されました。

パネリスト：千葉光一氏（関西学院大学理工学研究科教授）

平井和也氏（南三陸町ネイチャーセンター友の会会員、NPO法人海の自然史研究所
ボランティアエデュケーター）

加藤晃規氏（関西学院大学名誉教授）

コメントーター：朴勝俊（関西学院大学総合政策研究科教授）

山根周（関西学院大学総合政策研究科准教授）

司 会：高畑由起夫（関西学院大学総合政策研究科教授）

【ポスターセッション】

神戸三田キャンパスのAcademic Commonsのアクティヴ・ラーニング・ゾーンにおいて恒例のポスターセッションが開催されました。学外会員(企業等)4件、理工学研究科6件、総合政策研究科9件、合計19件のポスター発表が行われました。

(1)学外会員

吉良悟(TOTO(株)ESG推進部 環境商品推進G)

「TOTOグローバル環境ビジョン ～水と地球の、あしたのために～」

野島章吾((株)クロス クリエイティブ コア代表取締役)他9名

「大学教育における地域貢献活動型フィールドワークの意義 —関西学院大学 総合政策学部 白山麓実習5年間の活動から—」

大隅要((株)ロジックアンドサプライズ、龍谷大学非常勤講師)

「外国人留学生における採用環境の実態と課題」

田中正人(リスクデザイン研究センター)他4名

「被災リスク下にある歴史的景観地区コミュニティの移転意向と生活行動実態 —海南省黒江・船尾地区の事例—」

(2)理工学研究科

水谷雅治(理工学研究科化学専攻教授)

「元素同位体比を利用した地下水の起源推定」

青木崇明(理工学研究科数理科学専攻D1)

「定常状態からのパターン形成とその数理」

小林之乃(理工学研究科生命科学専攻D1)

「低酸素環境が関わる疾患と、その新規治療法の探索について」

岡 浩平(理工学研究科物理学専攻D1)

「皮膚角層を模倣したモデル膜による水分透過性の研究」

徐 小龍(理工学研究科生命科学専攻M2)

「Evaluation of growth inhibition effects induced by heterocycle antimony compounds in fission yeast and preliminary exploration of the mechanism」

辰巳貴則(理工学研究科人間システム工学専攻M2)他1名

「自己の存在感を転送する「自分ロボット」の提案」

(3)総合政策研究科・総合政策学部

魏小娥(大学院研究員)

「重要伝統的建造物群保存地区における交流の場とした施設の利活用に関する研究 —奈良県・大阪府・和歌山県を事例として—」

宮崎康支(総合政策研究科D2)

「日本における『発達障害』概念の構築にかかる問題 —新聞記事における概念定義と翻訳の課題に焦点を当てて—」

李 善仁(総合政策研究科M2)

「外国人労働者の文化適応ストレスとQWLの間で社会的関係の調節効果」

今井田千佳(総合政策研究科M2)

「地方自治体における生物多様性地域戦略策定の傾向と特徴の分析」

王 積(総合政策研究科M2)

「ポイント制の導入による教育システムのビジネスモデルの構築」

笹倉麻衣(総合政策研究科M2)

「分譲マンションの共用施設とコミュニティ形成についての考察」

妹尾圭吾(総合政策研究科M2)

「木造仮設住宅の展開に関する考察」

武末佐恵加(総合政策研究科M2)

「ジョージタウン(マレーシア・ペナン)の都市構成に関する研究」

前川裕量(総合政策研究科M2)

「中山間地域における地域力を使った地域再生」